

平成31年度 むかわ町児童生徒における 全国学力・学習状況調査の結果（概況）

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象児童生徒

	むかわ町	北海道（公立）	全国（公立）
小学校第6学年	54	38,831	1,028,203
中学校第3学年	55	37,859	938,797

※札幌市を含む

3 調査の内容

①教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）

※今年度、中学校英語を追加

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

4 調査日時

平成31年4月18日（木）

5 概況の内容

- (1) 各教科の平均正答率の状況と領域別等の状況
- (2) 問題別調査結果の分析
- (3) 児童質問紙・学校質問紙における本町の特徴的な項目
- (4) 取組の状況と今後の取組

※上記内容における問題の傾向や課題・対応等の分析は、「全国学力・学習状況調査解説資料」「同報告書」（文部科学省・国立教育政策研究所）を参考・一部引用している。

むかわ町教育委員会

11月

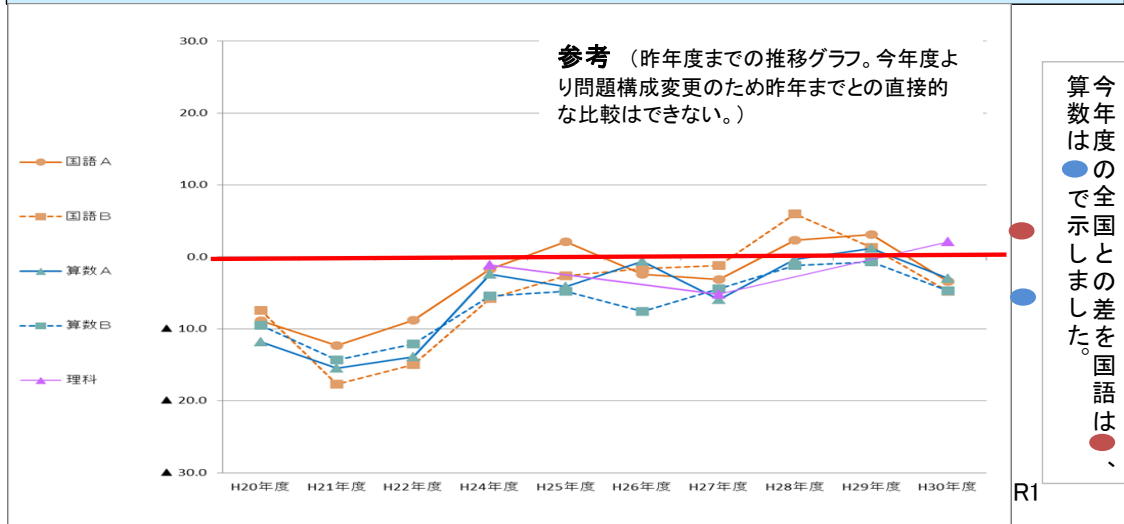
全国平均正答率との差 推移グラフ

	むかわ町	北海道	全国	全道との差	全国との差	全国と比べ
小学校						
国語	68	63	63.8	5	4.2	やや高い
算数	60	64	66.6	▲4	▲6.6	低い

全体：本町の小学校3校は、児童数が大きく異なり、結果の傾向(平均正答率、問題別正答率等)も違いが見られます。今年度は、「国語は全国よりやや高く、算数は全国より低い」という傾向にあります。

領域別・問題別の顕著な点

- 国語：領域別で「話すこと・聞くこと」が全国よりも高い傾向です。問題別では、【1(2)：記述の仕方の工夫を捉える】が3校ともに全国より上回っています。
- 算数：領域別で「量と測定」が全国より低い傾向です。問題別では、【1(1)：台形の理解】が3校ともに全国より上回っています。【1(3)：式で表した求め方の説明】、【4(2)必要な数量を選び立式】が3校ともに全国より低い傾向です。

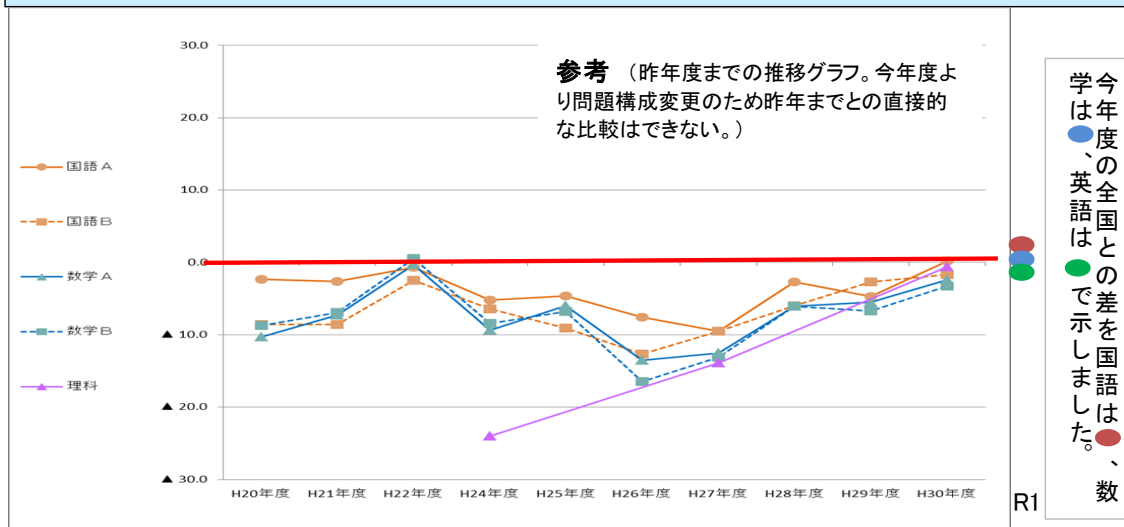


	むかわ町	北海道	全国	全道との差	全国との差	全国と比べ
中学校						
国語	75	72	72.8	3	2.2	やや高い
数学	60	58	59.8	2	0.2	ほぼ同程度
英語	55	54	56	1	▲1	ほぼ同程度

全体：中学校においても小学校同様に、結果の傾向(平均正答率、問題別正答率等)に違いが見られます。今年度は、「全国に比べ、国語がやや高く、数学と英語はほぼ同程度」という傾向です。

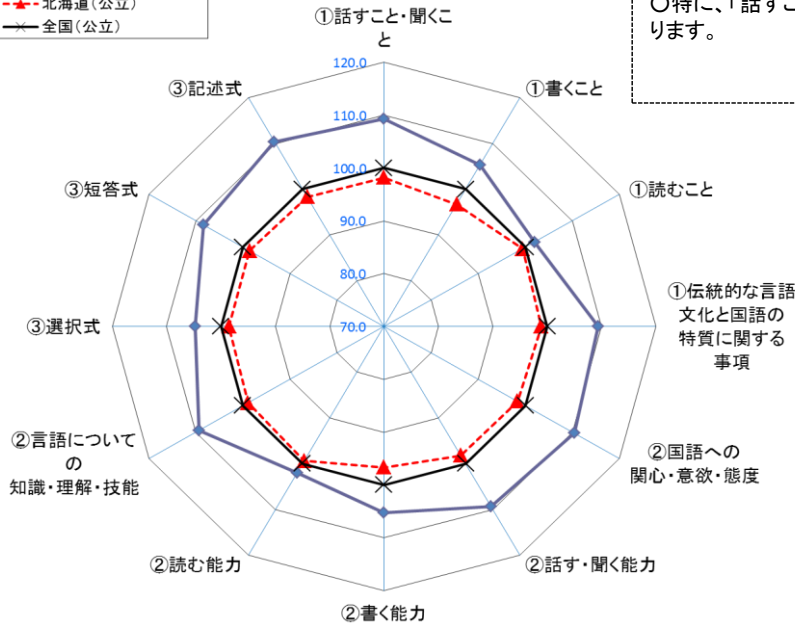
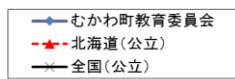
領域別・問題別の顕著な点

- ・国語：【1(3)：短歌一首選び考えたことを書く】と【2(3)：話し合いの流れを捉え、自分の考えをもつ】が全国より高い傾向です。【3(2)：根拠を明確にして書く】は2校とも全国より低い傾向です。
- ・数学：【7(1)三角形の合同条件】【9(3)数学的な結果の解釈】は2校とも全国より高い傾向です。【5：確率】、【7(3)：AF



教科の概況 ～レーダーチャート図～

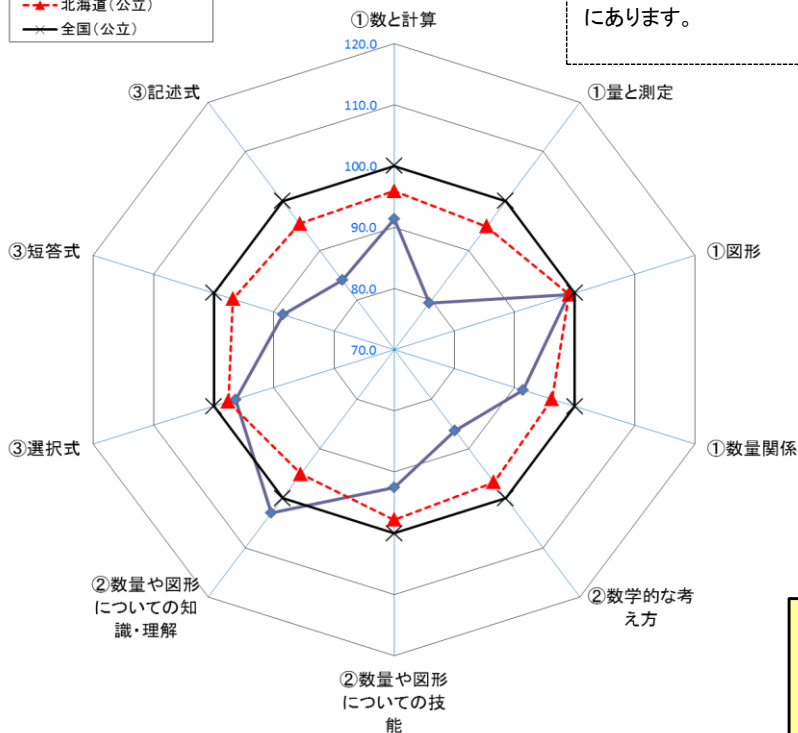
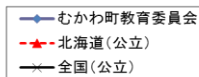
小学校 国語



傾向

○問題別・評価の観点別・問題形式別のいずれの分類においても、全国より高い傾向です。
○特に、「話すこと・聞くこと」が高い傾向にあります。

小学校 算数



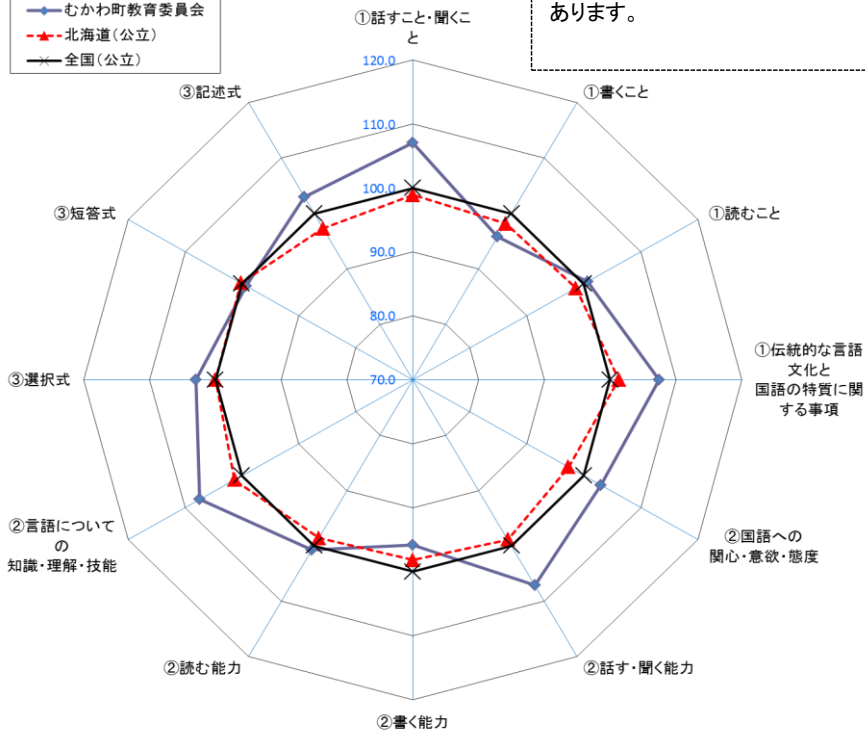
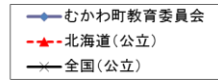
傾向

○領域別では、「量と測定」が平均正答率で全国より10Pより低い傾向にあります。
○観点別では、「知識・理解」は全国より高いのですが、「数学的な考え方」が全国より10P近く低い傾向にあります。

チャート図における分類

- ①学習指導要領の領域
- ②評価の観点
- ③問題形式

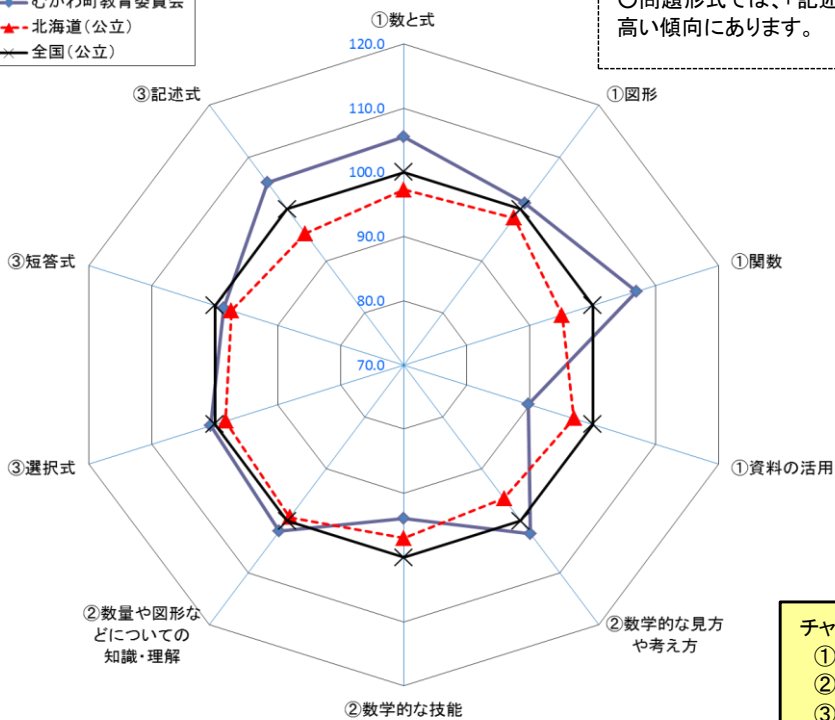
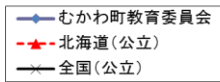
中学校 国語



傾向

○「書くこと」を除き、問題別・評価の観点別・問題形式別のいずれの分類においても、全国より高い傾向です。
○小学校同様、特に、「話すこと・聞くこと」が高い傾向にあります。

中学校 数学



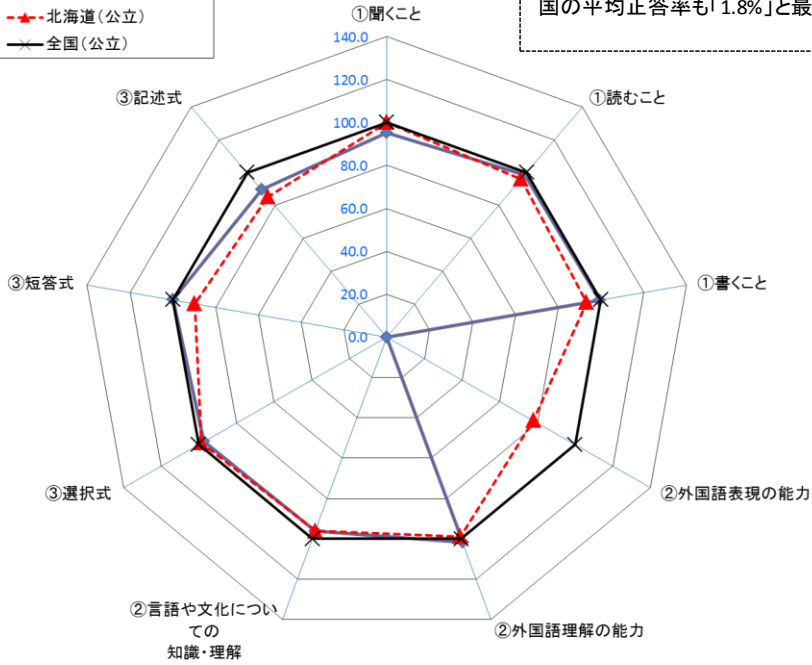
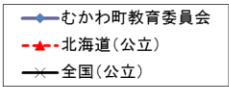
傾向

○領域別では、「資料の活用」が全国と比べ、やや低い傾向にあります。
○問題形式では、「記述式」が全国と比べ、やや高い傾向にあります。

チャート図における分類

- ① 学習指導要領の領域
- ② 評価の観点
- ③ 問題形式

中学校 英語



傾向
 ○「外国語表現の能力」を除き、問題別・評価の観点別・問題形式別のいずれの分類においても、全国とほぼ同様の傾向です。
 ○「外国語表現の能力」は対象問題数が1問で、全国の平均正答率も「1.8%」と最も低い問題です。

正答率、無解答率における比較

次頁以降の「問題別傾向」と合わせた傾向です。

小学校 国語	R元年度	
	全道	むかわ町
正答率が全国以上の問題数	1/14問	11/14問
無解答率が全国以下の問題数	9/14問	10/14問
無解答率が5%以上の問題数	8/14問	5/14問

正答率が全国以上の問題数が11こ、その中で10P以上高い問題が2つあります。無解答率も低い傾向です。

小学校 算数	R元年度	
	全道	むかわ町
正答率が全国以上の問題数	1/14問	4/14問
無解答率が全国以下の問題数	5/14問	13/14問
無解答率が5%以上の問題数	2/14問	2/14問

正答率が全国以上の問題数が4こ、全道より上回っていますが、全国より10Pより低い問題が5つあり、平均正答率では、全国・全道より低い傾向です。

中学校 国語	R元年度	
	全道	むかわ町
正答率が全国以上の問題数	5/10問	7/10問
無解答率が全国以下の問題数	6/10問	7/10問
無解答率が5%以上の問題数	3/10問	2/10問

正答率が全国以上の問題数が7こあり、無解答率も低い傾向です。

中学校 数学	R元年度	
	全道	むかわ町
正答率が全国以上の問題数	3/16問	11/16問
無解答率が全国以下の問題数	5/16問	9/16問
無解答率が5%以上の問題数	9/16問	9/16問

正答率が全国以上の問題数が11こ、全国比で6P以上高い問題も5つあります。しかし、全国よりも10Pより低い問題が2つあり、問題による差が大きい傾向と言えます

中学校 英語	R元年度	
	全道	むかわ町
正答率が全国以上の問題数	4/21問	10/21問
無解答率が全国以下の問題数	13/21問	12/21問
無解答率が5%以上の問題数	7/21問	7/21問

正答率が全国以上の問題数が10こありますが、全国よりも10Pより低い問題が3つあり、問題による差が大きい傾向と言えます。

【全体的な傾向】

- 小学校・中学校ともに、無解答率が少ない傾向にあり、本町で今まで取り組んできている成果と言えます。
- 全ての教科において正答率が全国以上の問題数が全道より多い傾向です。
- 算数・数学では、正答率の差が全国より大きく低い問題が複数あり、課題の一つと言えます。

問題別傾向 小学校(国語)

緑色:全国比 6P以上高い 太字:10P以上
 黄色:全国比 6Pより低い 太字:10Pより低い
 無解答率では5%以上に黄色

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等										問題形式		正答率(%)		無解答率(%)			
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語文化	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	「活用」に関する問題	「知識」に関する問題	選択式	記述式	むかわ町	全国(公立)	むかわ町	全国(公立)	
1二	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「(2)公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」における書き方の工夫として適切なものを選択する	情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方工夫を捉える	5・6ウ															63.4		5.9
1四(1)ア	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の「ア」部を、漢字を使って書き直す(調査のたいしよ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う		5・6(1)ウ(ア)														41.9		8.2
1四(1)イ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の「イ」部を、漢字を使って書き直す(友達にかざらず)			5・6(1)ウ(ア)														69.4	10%以上	12.1
1四(1)ウ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の「ウ」部を、漢字を使って書き直す(かんしんをもってもらいたい)			5・6(1)ウ(ア)														35.6		4.9
1四(2)	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「エ」の1文を、接続語「そこで」を使って2文に分けて書き直す	文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く		3・4(1)イ(ウ)														47.8		11.3
3一	昼職人への【インタビューの様子】の「ア」に入る、自分の理解が正しいかを確認する質問として適切なものを選択する	話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする	5・6エ															81.3		3.4
3三	【インタビューの様子】の「イ」に、昼職人の仕事への思いや考えに着目して心に残ったことを書く	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる	5・6エ															68.2		14.2
3四	ことわざの使「ウ」の例として、【ノートの一部】の「エ」に入る適切なものを選択する(習うより慣れよ)	ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる		3・4(1)ア(イ)														73.0		7.9

小・国語:1の4(1)ウ

【趣旨】

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しくつかうことができるかどうかをみる。

【傾向と対策】

- 誤答の傾向は、・・・「関心」ではなく、「感心」との誤答が6割近くとなった。
- 対策例:繰り返し練習だけでなく、文章の中で漢字の持つ意味を考えながら正しい使い方を習得できるようにする。また、各学年の発達段階に応じて指導することが大切である。
- 対策例:同音異義語の指導では、同じ音からいくつかの熟語を思い浮かべ、それぞれの意味を考えて文脈にふさわしい熟語を選んで書くことができるようにすることが大切である。

問題別傾向 小学校(算数)

緑色:全国比 6P以上高い 太字:10P以上
 黄色:全国比 6Pより低い 太字:10Pより低い
 無解答率では5%以上に黄色

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式	正答率(%)		無解答率(%)			
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての知識・理解	「活用」に関する問題		「知識」に関する問題	選択式	記述式	むかわ町	全国(公立)	むかわ町
1 (1)	長方形を直線で切ってきた図形の中から、台形を選ぶ	台形について理解している			4(1) アイ										93.1		0.1
1 (3)	減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く	示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる			5(1) ア										全国比20P 近く低い	43.9	6.7
2 (2)	2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く	2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍か読み取ることができる			4(3) イ		3(3) ア								全国比10P より低い	78.6	1.0
2 (3)	二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだだけを書く	資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる			5(4) ア		3(3) ア								全国比10P より低い	52.1	2.0
3 (1)	350-97について、引く数の97を100にした式にして計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く	示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる			3(2) イウ										全国比10P より低い	81.8	0.9
3 (2)	減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようになるのかを書く	示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる			3(2) ウ 4(3) エ										31.1		10.8
4 (1)	だいたい何分後に乗り物券を買う順番がくるのかを知るために、調べる必要のある事柄を選ぶ	目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことができる					4(1)								全国比10P より低い	82.7	1.7
4 (2)	何秒後にゴンドラに乗ることができるのかを求める式を書く	示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができる			3(3) イ										68.6		4.4
4 (3)	残り7ボール分進むのにかかる時間の求め方と答えを記述し、24分間以内にレジに着くことができるかどうかを判断する	場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断できる			5(4) ア		5(1) ア								62.6		3.5

小・算数:1の(3)

【趣旨】

示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

【傾向と対策】

- 誤答の傾向:正答は「①20は長方形の面積 ②4は三角形の面積 ③減法の意味」の3つ要素が書かれていることが条件である。本町の誤答では、「1つの要素しか書いていない」、「誤答例以外の誤答」が全国より多い割合である。
- 対策例:本設問を用いて、二つの合同な台形で作られた図1の形について、面積の求め方を考察し式で表現して、面積の求め方について説明し合う活動。その際、面積の求積公式が既習である図形で構成されている形と捉えることができるようにしたり、「20や4は何を表していますか。」や「20-4の引くはどのようなことを表していますか。」と問いかけ、数の意味や演算の意味などを、図形と関連付けて説明することができるようにしたりすることも大切である。
- 対策例:第4学年や第5学年などにおける、L字の形をした図形や凸の形、凹の形をした図形の面積や体積の求め方を考える場面、図形と式とを関連付け、面積や体積の求め方について説明し合う活動も考えられる。

小・算数:2の(3)

【趣旨】

二つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取り、それらを関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、判断の理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

【傾向と対策】

- 誤答の傾向:本町の誤答としては、別な項目を選択した割合が比較的多い傾向。
- 対策例:本設問を用いて、水を大切に使用しているかどうかを知るために、市全体の水の使用量には、市の人口が関係していることに気付く、一人当たりの水の使用量について考察し判断する活動の設定。その際、一人当たりの水の使用量はどのように求めることができるのかを確認するなどして、市全体の水の使用量と市の人口について、それぞれの資料の特徴や傾向を関連付けて考察する必要があることに気付くことができるようにすることが大切である。その上で、ある量の水を2人で分けるときよりも3人で分けるときの方が一人分の水の量は減るといった簡単な場合を基に考えることも大切である。

問題別傾向 中学校(国語)

緑色:全国比 6P以上高い 太字:10P以上
 黄色:全国比 6Pより低い 太字:10Pより低い
 無解答率では5%以上に黄色

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式	正答率(%)		無解答率(%)				
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語に関する知識・理解・技能		「知識」に関する問題	「活用」に関する問題	選択式	短答式	記述式	むかわ町	全国(公立)
1四	「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く	封筒の書き方を理解して書く			1 (2) ア											56.8		5.6
2三	話合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないうこと」について自分の考えを書く	話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ	1 オ													60.4	全国比10P以上高い	8.9
3二	広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える	伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く	1 ウ													77.8		7.9
4	語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する	語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解する			1 (1) イ (ウ)											78.7	全国比10P以上高い	1.2

中・国語:3の二

【趣旨】

伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる。

【傾向と対策】

- 誤答の傾向:追加文の2つの条件を満たしていない記述で誤答となる割合が比較的多い。
- 対策例:説得力のある文章にするためには、自分の考えを支える根拠を明確にして書くように指導することが大切である。例えば、課題に沿って文章や図表などから必要な情報を根拠として取り出して、自分の考えを書くなどの学習活動が考えられる。
- 対策例:問題や課題などについて述べる段落、集めた材料などについて分析する段落、それらを基に自分の考えや意見を述べる段落など、段落の役割を考えて文章を構成するように指導することも重要である。以下の参考にする。

平成26年度【中学校】国語B授業アイデア例「説明的な文章を読んで、質問に答えよう」

平成28年度【中学校】国語A授業アイデア例「要望する文章を書こう」

「言語活動の充実に関する指導事例集～【中学校版】」

問題別傾向 中学校(数学)

緑色:全国比 6P以上高い 太字:10P以上
 黄色:全国比 6Pより低い 太字:10Pより低い
 無解答率では5%以上に黄色

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域			評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)				
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方の活用	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	「活用」に関する問題	「知識」に関する問題	選択式	短答式	記述式	むかわ町	全国(公立)	むかわ町
1	a と b が正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ	数の集合と四則計算の可能性について理解している	1(1)ア												62.2			0.2
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2(2)ウ												70.1			5.1
4	反比例の表から式を求める	反比例の表から、 x と y の関係を式で表すことができる	1(1)エ												48.9			10.4
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表の出る確率を求める	簡単な場合について、確率を求めることができる	2(1)ア												72.8			3.3
6(2)	冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	2(1)イ、エ												34.7	10%以上		11.6
7(1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	2(2)ア												75.8			5.2
7(3)	四角形ABCDがどのような四角形であれば、 $AF=CE$ になるかを説明する	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる	2(2)ウ												53.3	10%以上		17.6
8(1)	読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める	資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる	1(1)ア												57.9	10%以上		10.6
8(2)	「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	1(1)イ												40.8	10%以上		21.3
8(3)	図書室よりの下書きに書かれているわかったことの根拠となる値として適切なものを選ぶ	問題解決するためにどのような代表値を用いるべきかを判断することができる	1(1)ア、イ												53.6			1.0
9(1)	説明をよみ、 $6n+9$ を $3(2n+3)$ に変形する理由を完成する	与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えることができる	2(1)イ、ウ												57.4			9.5
9(2)	連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する	事柄が成り立つ理由を説明することができる	2(1)イ、ウ												59.7	10%以上		17.8
9(3)	連続する4つの奇数の和が $4(2n+4)$ で表されるとき、 $2n+4$ はどんな数であるかを選ぶ	総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができる	2(1)イ、ウ												69.6			1.9

中・数学:7の(3)

【趣旨】結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる。

【傾向と対策】

○誤答の傾向: 正答には3つの条件のうち、2つの条件を満たした記述が必要だが、記述が不十分な割合が比較的多い。
 ○対策例: 本設問を使って授業を行う際には、辺ABの中点をE、辺BCの中点をFとする条件は変えずに、正方形ABCDを他の四角形ABCDに変えた場合、 $AF=CE$ となる四角形はどのような四角形であればよいかを考え、説明する活動を取り入れることが考えられる。このような活動を通して、結論 $AF=CE$ が成り立つための前提 $AB=CB$ を考え、例えば、「四角形ABCDがひし形ならば、 $AF=CE$ になる。」や「四角形ABCDが $AB=CB$ の四角形ならば、 $AF=CE$ になる。」など見いだした事柄を数学的に表現できるようにすることが大切である。
 (参照)「平成31年度(令和元年度)【中学校】授業アイデア例」P.9～P.10

中・数学:8の(1)

【趣旨】資料を整理した表から最頻値を読み取ることができるかどうかをみる。

【傾向と対策】

○誤答の傾向: 誤答例以外の誤答の割合が比較的高い。
 ○対策例: 本設問を使って授業を行う際には、全校生徒の1か月間に読んだ本の冊数のデータを収集して整理し、表やヒストグラムなどに表し、代表値を用いて資料の傾向を説明する場面を設定することが考えられる。その際、読んだ本の冊数の最頻値とは、何冊読んだ人が一番多いかを冊数で表すものであり、人数ではないことを確認する活動を取り入れることが考えられる。

問題別傾向 中学校(英語)

緑色:全国比 6P以上高い 太字:10P以上
 黄色:全国比 6Pより低い 太字:10Pより低い
 無解答率では5%以上に黄色

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式	正答率(%)		無解答率(%)		
			聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	外国語理解の能力	外国語表現の能力	「知識」に関する問題	「活用」に関する問題		むかわ町	全国(公立)	むかわ町	全国(公立)	
1(1)	ある状況を描写する英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ることができる	(7) (4)										全国比10Pより低い	91.1		0.2
1(2)	教室英語を聞いて、その指示の内容を最も適切に表している絵を選択する	教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる	(7) (4)										全国比10Pより低い	88.6		0.1
1(3)	外国人の先生と女子生徒の会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる	(7) (4)											72.3		0.2
2	イギリスと日本の類似点や相違点についてのスピーチを聞いて、話の展開に合わせて示す絵を並び替える	まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる	(7)											71.8		0.2
4	来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く	聞いて把握した内容について、適切に応じることができる	(7)											7.6	40%以上	42.3
5(2)	ある状況を描写する英文を読んで、その内容を最も適切に表している絵を選択する	日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる	(7) (4)										全国比10Pより低い	74.4		0.2
6	発表活動のためにまとめられた100円ショップについての文章を読んで、話の流れを示すスライドとして最も適切なものを選択する	まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解することができる	(7)											62.9		0.4
8	食糧問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く	書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる	(7)											10.9	30%以上	27.9
9(1)(1)	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する	文の中で適切に接続詞を用いることができる	(7) (4)											79.9		0.3
9(1)(2)	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する	文の中で適切に接続詞を用いることができる	(7) (4)											58.2		0.5
9(2)(1)	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く	一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書くことができる	(7) (4)											73.6		4.4
9(2)(2)	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く	一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる	(7) (4)											28.9	10%以上	12.6
9(3)(1)	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる	(7) (4)											53.5		6.4
9(3)(2)	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる	(7) (4)											32.9	10%以上	9.3
9(3)(3)	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができる	(7) (4)											37.4		10.5
10	学校を表す2つのピクトグラム(案内用記号)の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く	与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる	(7)											1.8	10%以上	8.3

中・英語:5の(2)

【趣旨】

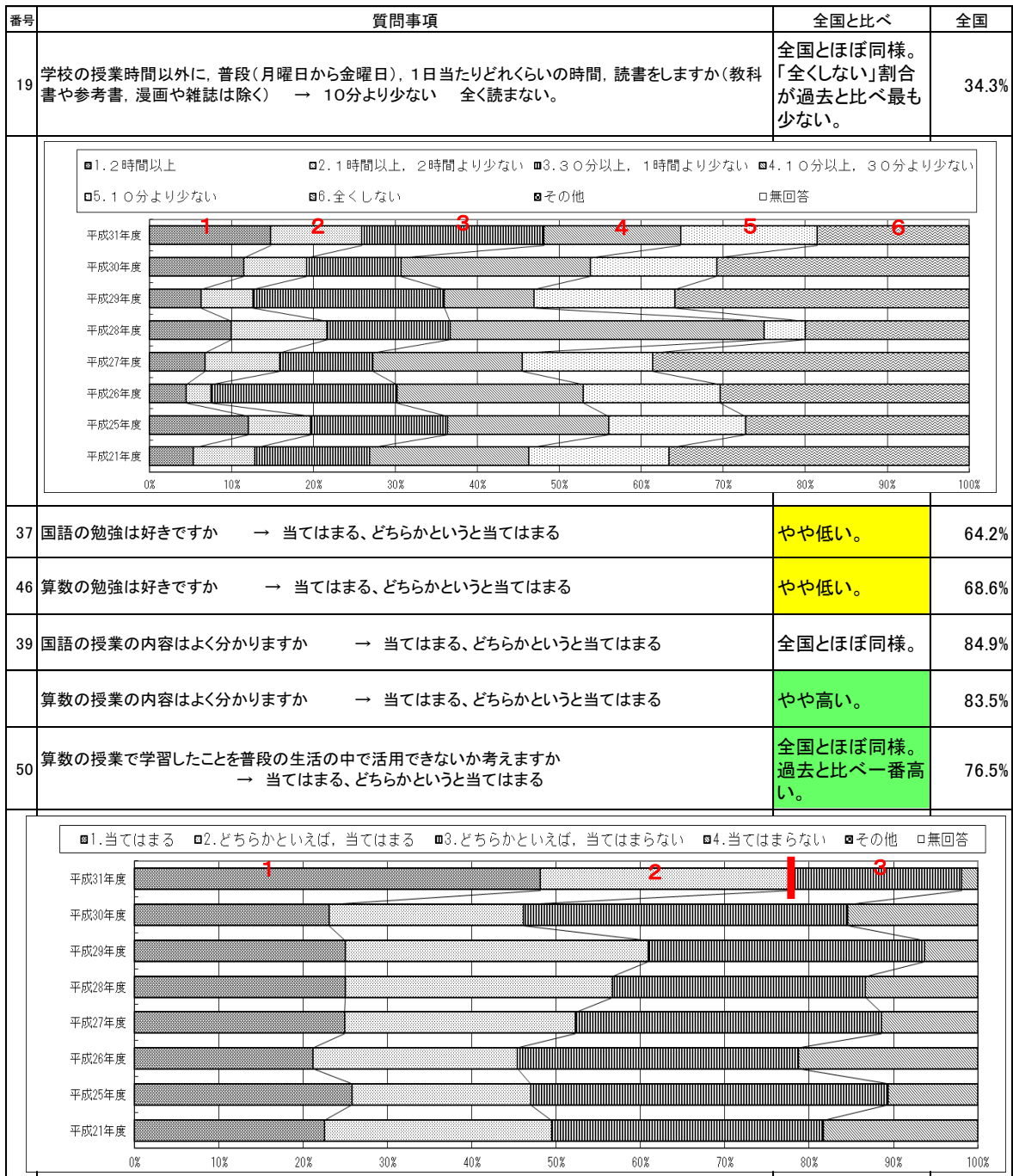
日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができるかどうかをみる。

【傾向と対策】

- 誤答の傾向:「1と4」を選択している割合比較的多い。
- 対策例:具体的な指導としては、以下のような活動が考えられる。
 - ・音声で十分慣れ親しんだ語句や文を使った英語の場合は、口頭導入でおおまかな内容を理解してからではなく、初めから独力で読み取る活動
 - ・絵やグラフなどの資料を含む英文を読み取る活動
 - ・様々な形式の英語(広告、メニュー、メモ、メールなど)を読み取る活動
 - ・読む時間を設定するなど、短時間で内容を把握する活動

児童質問紙における本町の特徴的な事項（小学校）

番号	質問事項	全国と比べ	全国
5	自分には、よいところがあると思いますか → 当てはまる、どちらかという当てはまるの合計	約10%低い。	81.2%
<div style="display: flex; justify-content: space-between; font-size: small;"> ■1.当てはまる ■2.どちらかといえば、当てはまる ■3.どちらかといえば、当てはまらない ■4.当てはまらない ■その他 □無回答 </div>			
1	朝食を毎日食べていますか → している、どちらかといえばしているの合計	全国との差は小さく、過去3年間の中では高い方である。	95.3%
<div style="display: flex; justify-content: space-between; font-size: small;"> ■1.している ■2.どちらかといえば、している ■3.あまりしていない ■4.全くしていない ■その他 □無回答 </div>			
17	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか → している どちらかといえばしている	やや高い。	71.5%
18	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む） → 1時間以上	「1時間以上」では全国より15%以上低く、「30分から1時間」が最も多い。	66.1%
<div style="display: flex; justify-content: space-between; font-size: small;"> ■1.3時間以上 ■2.2時間以上、3時間より少ない ■3.1時間以上、2時間より少ない ■4.30分以上、1時間より少ない </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; font-size: small;"> ■5.30分より少ない ■6.全くしない ■その他 □無回答 </div>			



【児童質問紙から顕著な傾向】

○家庭学習では、「全くしない」「30分より少ない」の合計が4%以下であり、全国10%と比べ割合は少なく、家庭学習の定着が図られている傾向です。

▲ただ、「家庭で1時間以上学習する」児童の割合は全国と比べ15%以上低い割合となっています。

○「勉強が好き」と「授業の内容がよく分かる」については、両教科ともに全国と同様か少し高い傾向にあります。

○読書では、「全くしない」の割合が過去の結果と比べ最も少ない数字となっています。

生徒質問紙における特徴的な事項（中学校）

番号	質問事項	全国と比べ	全国
5	自分には、よいところがあると思いますか → 当てはまる、どちらかという当てはまるの合計	やや低い	74.1%
<div style="display: flex; justify-content: space-between; font-size: small;"> ■1.当てはまる ■2.どちらかといえば、当てはまる ■3.どちらかといえば、当てはまらない ■4.当てはまらない ■その他 □無回答 </div>			
1	朝食を毎日食べていますか → している どちらかといえば、している。	10%以上低い	93.1%
<div style="display: flex; justify-content: space-between; font-size: small;"> ■1.している ■2.どちらかといえば、している ■3.あまりしていない ■4.全くしていない ■その他 □無回答 </div>			
17	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか → している どちらかといえばしている	全国よりやや高い	50.4%
18	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む） → 1時間以上	全国より10%以上少ない	69.8%
	→ 2時間以上	昨年度より全国との差は小さいが、それでも全国の半分以下という低い割合である。	35.5%
<div style="display: flex; justify-content: space-between; font-size: small;"> ■1.3時間以上 ■2.2時間以上、3時間より少ない ■3.1時間以上、2時間より少ない ■4.30分以上、1時間より少ない ■5.30分より少ない ■6.全くしない ■その他 □無回答 </div>			

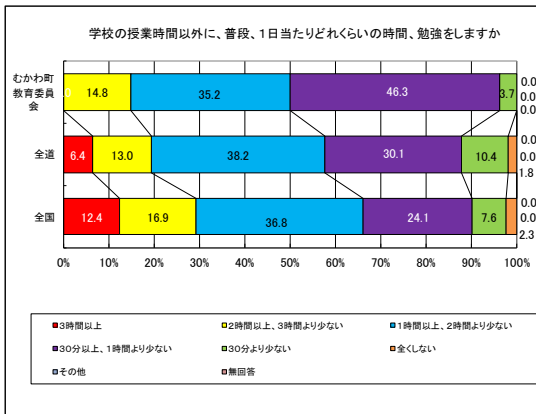
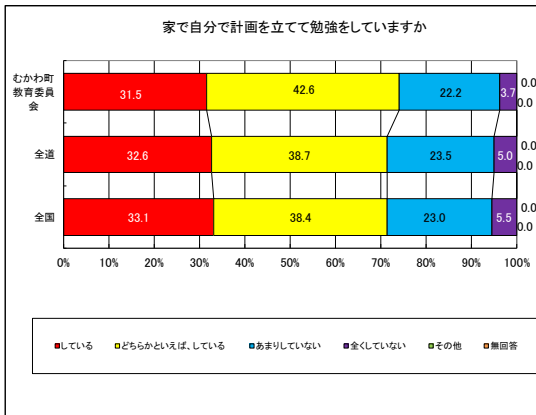
番号	質問事項	全国と比べ	全国
19	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く) → 10分以下。全く読まない。	全国とほぼ同様	49.6%
40	国語の勉強は好きですか → 当てはまる、どちらかという当てはまる	全国より10%近く高い	61.7%
49	数学の勉強は好きですか → 当てはまる、どちらかという当てはまる	全国とほぼ同様	57.9%
54	英語の勉強は好きですか → 当てはまる、どちらかという当てはまる	全国よりやや高い	56.0%
42	国語の授業の内容はよく分かりますか → 当てはまる、どちらかという当てはまる	全国よりやや高い	77.6%
51	数学の授業の内容はよく分かりますか → 当てはまる、どちらかという当てはまる	全国よりやや高い	56.0%
54	英語の授業の内容はよく分かりますか → 当てはまる、どちらかという当てはまる	全国よりやや高い	66.0%

【生徒質問紙から顕著な傾向】
 ○家庭学習では、「1時間以上」が全国より10%以上低い割合であるが、町内の過去との比較では、比較的高い割合にあります。
 ○「勉強が好き」については、3教科ともに全国と同様か少し高い傾向にあります。
 ○「授業の内容がよく分かる」については、3教科ともに全国よりやや高い傾向にあります。
 ▲「朝食を毎日食べている」については、今年度、全国と比べても、町の過去の結果と比べても低い傾向になっています。2割の生徒が「あまりしていない」「全くしていない」と回答しています。

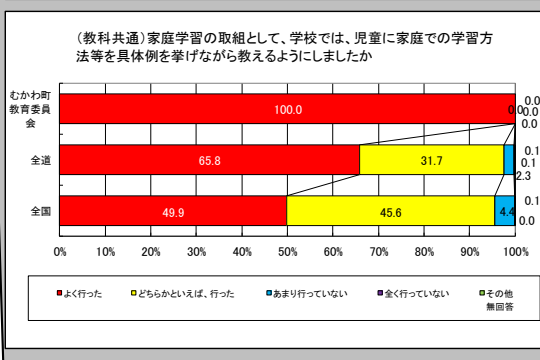
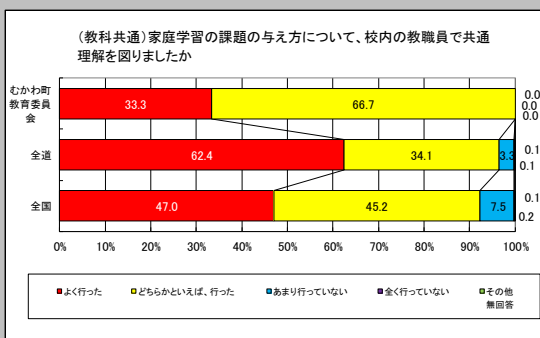
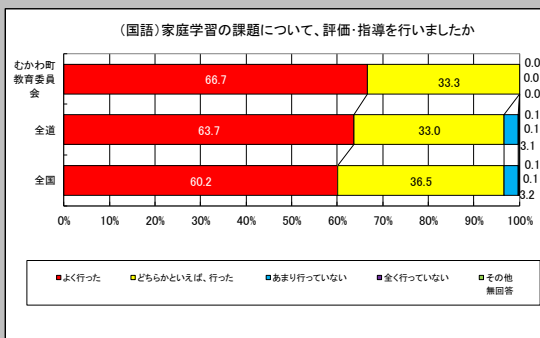
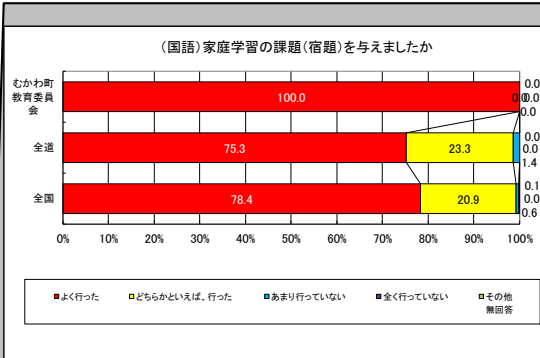
児童生徒質問紙と学校質問紙の関連から

家庭学習

<児童質問紙>



<学校質問紙>



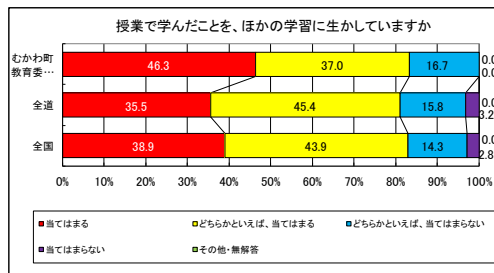
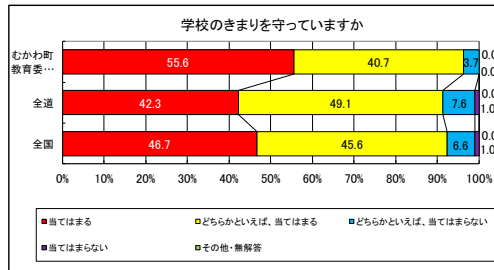
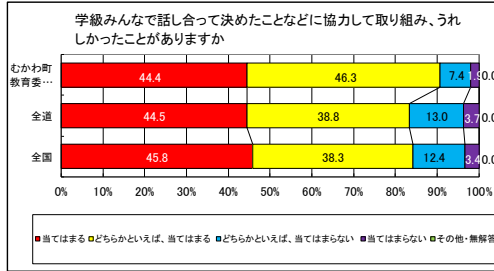
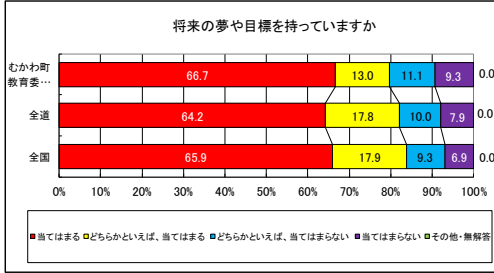
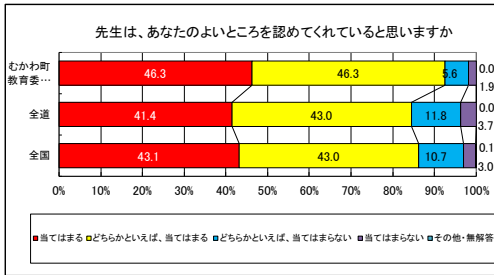
【考察】

○児童質問紙における「学校の授業以外での勉強時間」では、「30分以上」という回答が約9.6%であり、家庭での学習習慣の定着が見られる結果と言えます。この結果は、学校質問紙における「家庭学習の課題(宿題)を与えた」「家庭での学習方法の具体例の提示」などでの学校の取り組みの工夫につながっていると考えられます。

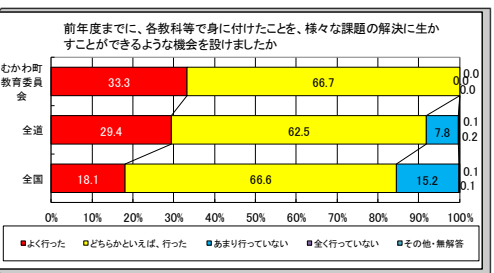
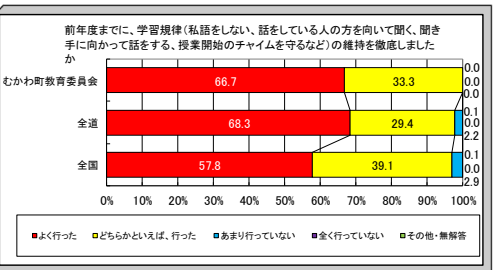
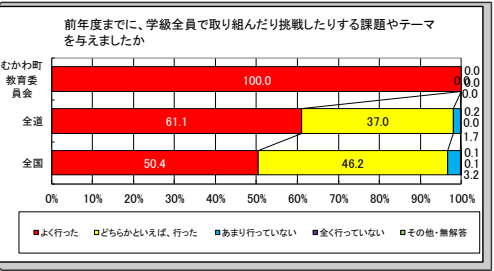
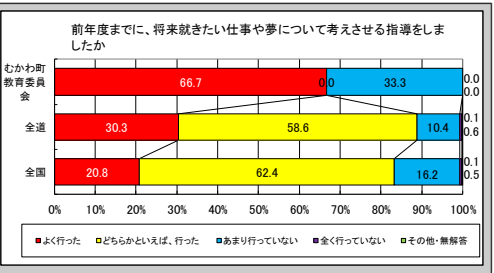
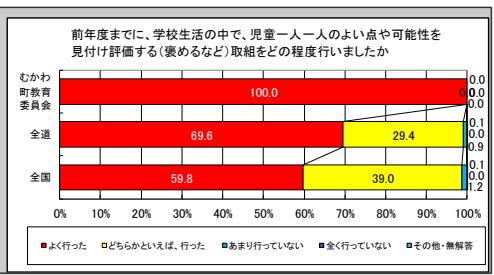
▲しかし、勉強時間が「1時間以上」と回答した割合は50%であり、全国と比べ15%以上少ない割合となっています。

学習指導等

＜児童質問紙＞



＜学校質問紙＞

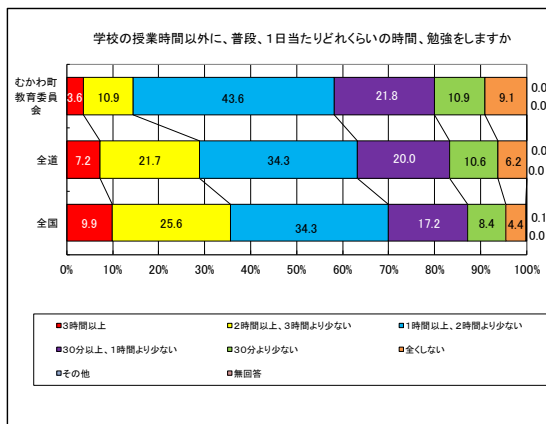
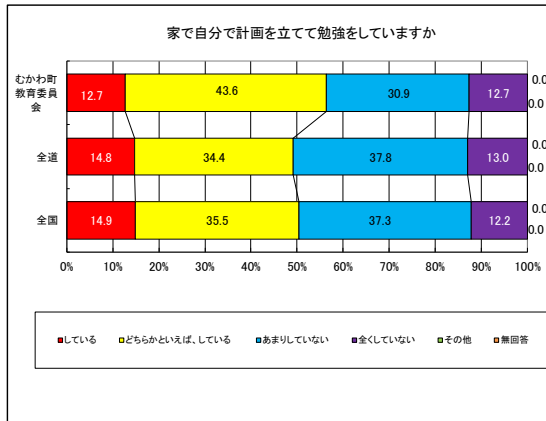


【考察】

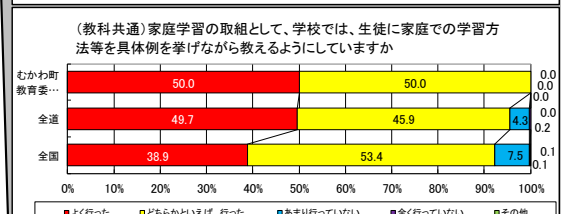
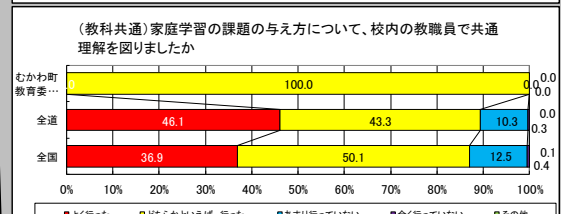
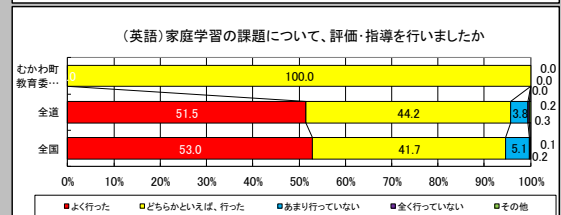
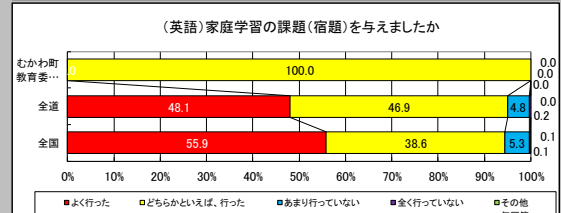
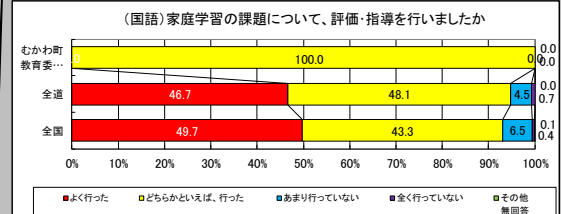
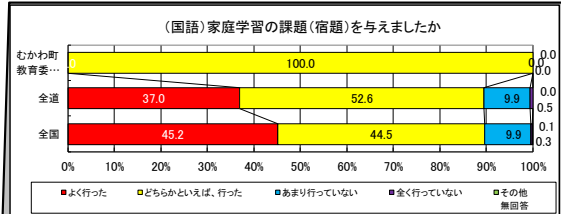
○児童質問紙「先生は、よいところを認めてくれている」において、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」を合わせた割合が全国・全道より高い結果であり、学校での取り組みの工夫が関連していると考えられます。同じような傾向は、「学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがあります」の回答でも見られ、全国より高い傾向が見られます。

家庭学習

<生徒質問紙>



<学校質問紙>

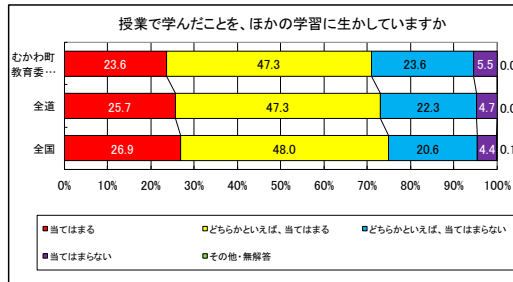
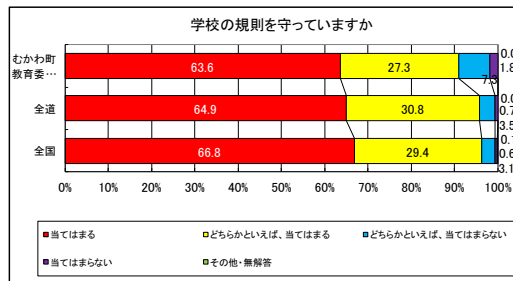
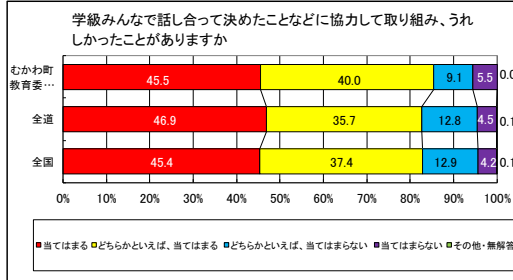
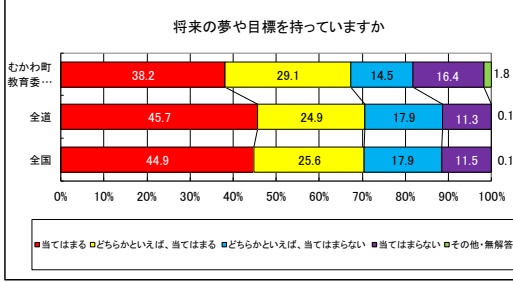
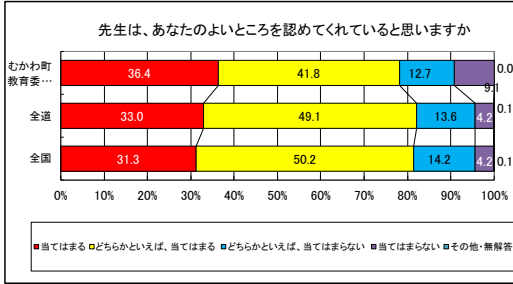


【考察】

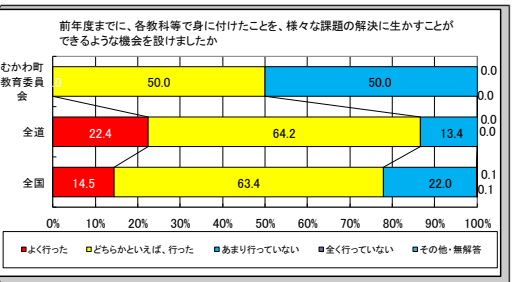
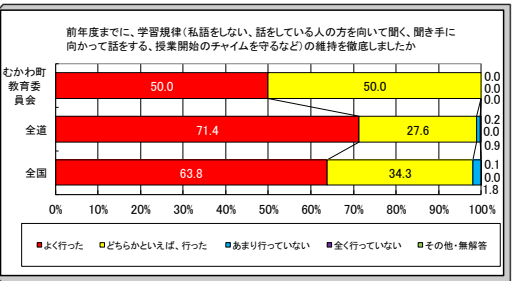
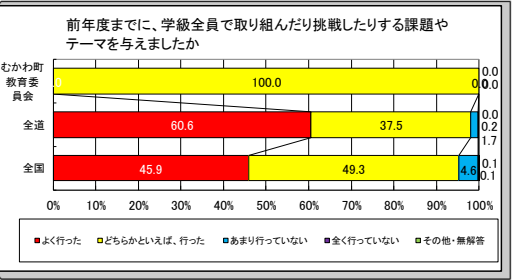
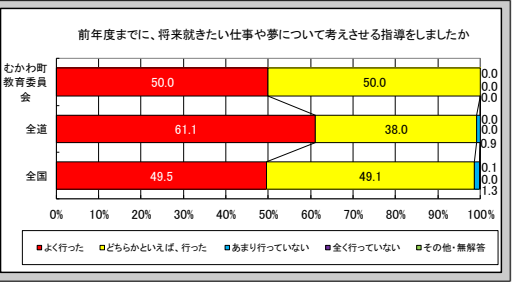
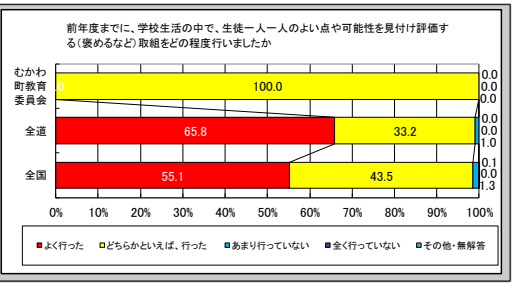
○児童質問紙における「学校の授業以外での勉強時間」では、「1時間以上、2時間より少ない」と回答した割合は全国より多いのですが、「2時間以上」と回答した割合は全国の半分以下という結果です。全国と比べ、勉強時間が少ない傾向にあると言えます。

学習指導等

＜生徒質問紙＞



＜学校質問紙＞



【考察】

○生徒質問紙においては、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」を合わせた割合でみると、全国と大きな差がみられません。

むかわ町の学力向上の取組について

(1) 現在までの取組

むかわ町の取組の特徴は、学校と教育委員会が連携し、次の3つのベクトルから学力向上を図っていることです。

授業改善を中心とした「校内方向のベクトル」

小中連携を中心とした「縦方向のベクトル」

家庭・地域との連携を中心とした「横方向のベクトル」

具体的には、

ア 各学校における学校の実態に応じた学力向上策

※学力向上対策協議会等で情報交流

イ むかわ町教育改善検討委員会を組織

事務局：教職員研修会 道外視察

学力向上対策関連：学力調査・CRTの考察 学力向上策交流

ステップアップ関連：学習生活規律 小中授業交流

乗り入れ授業・相互参観

家庭学習支援関連：家庭学習に関する手立ての交流 啓発資料

ウ 「家庭学習の手引き」の作成・配布

エ 生活実態アンケートの実施と分析・考察（分析結果を全家庭配布）

オ 9年間見通した学習生活規律の確立

カ 標準学力検査（CRT）の実施と分析による指導方法の改善

キ 全国学力・学習状況調査および標準学力検査の結果にかかわる分析と公表

ク よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート「hyper-QU」の実施

ケ 学習支援員等の配置による学習指導の充実への支援

コ 通学合宿等を実施し、学習意欲の向上と理解力を高める学びの環境整備

(2) 今後の取組

3つのベクトル（校内・縦方向・横方向）から学力向上を図る本町の特徴を、学校・家庭・地域・教育委員会が連携しながら進めてきていることで、成果として出始め、27年度頃からは、成果の表れがよく出ています。今後も、適時検討をし、見直し・修正を加えながら、現在までの取組を充実していくことが重要と考えます。

特に、学校と家庭・地域との連携はますます重要で、規則正しい生活習慣・学習習慣の定着のため、適切な情報発信による啓発活動に取り組んだり、コミュニティ・スクールにおける学校運営協議会とのかかわりを大切にしたりしていきます。